

第2回第2期下野市地域福祉計画及び活動計画策定委員会 議事録【要旨】

- 開催日時 平成28年7月26日(火) 14:00~16:00
- 開催場所 下野市役所202会議室
- 出席者 林委員(委員長)、川俣委員(副委員長)、百武委員、滝澤委員、津野田委員、軽部委員、佐藤委員、伊澤委員、山田委員、金島委員、鱒淵委員、岡委員、海老原委員、平出委員、青柳委員、石嶋委員、藤沢委員、長谷川委員、鶴見委員、曾我委員(計20名)
- 欠席者 梶井委員
- 事務局 下野市社会福祉課：小口健康福祉部長、山中社会福祉課長、伊澤グループリーダー、渡辺主幹、市村主事
下野市社会福祉協議会：蓬田事務局長、角田総務課長、小林地域福祉課長、添野課長補佐
- 委員会
 1. 開会 (事務局)
 2. あいさつ (林委員長)
 3. 議題
 - 委員長 第2回の議事録署名を津野田委員と軽部委員にお願いします。

本日は第1期計画の評価とアンケート調査の2つが議題です。
議題(1)第1期計画の評価は、地域福祉計画と地域福祉活動計画の2つの計画の評価ですが、いずれも評価は控え目でAがありませんが、その辺も含めて、事務局からそれぞれの計画毎に報告を頂きたいと思います。
 - 事務局 (議題(1)について、以下の資料を説明)
 - ・「資料1」(「下野市地域福祉計画」及び「地域福祉活動計画」の事業総括結果の概要)
 - ・「下野市地域福祉計画 期末検証と今後の取り組み一覧」
 - 委員長 議題(1)についての事務局より説明をお願いします。
 - 事務局 (資料1、議題(1)についての事務局より説明)
 - 委員長 まず、地域福祉計画の評価から説明をいただき、Bは伸び得ているという評価でもあったことがわかりました。この行政が行った評価についてのご意見やご質問がありましたらお願いします。

追加事業ですが、地域福祉を推進する仕組みとして、あえて追加事業として入れた理由は何でしょうか。

事務局 追加事業は、「市の主な取り組み」という枠がなく取り組みだけの事業でしたが、関係する事業とともに評価していこうということで入れることとしました。

委員長 積極的な意味で追加したということですね。

委員 H24年3月に計画をまとめた時、目標値は設定されているのではないかと思います、達成度は何に対して達成したのか、目標が入ってないので、良かった・悪かったが判りにくいと思いました。この次は例えば「Aの目標値」、「Bの目標値」があって、初めて結果の振り返りができると思います。

委員長 計画は理念的なものなので、目標として数値は入れていないとの事務局からの話でした。

委員 それは理解するのですが、もともと何が目標だったのか、AなのかBなのか、ということがあって良かったのではと思います。

委員長 理念の場合、目標達成までの間にどういう段階やプロセスがあるのかということを見える化し、ここまで行けばA、ここまでがBという、「プロセスゴール」の設定があったら評価しやすいと思います。そういう意味でBの中でもいい評価のBと現状維持で継続というBもあり、Cはもっと頑張らなければいけない継続ということだと思いますが、そうした理念の評価基準が、ある程度あったらよかったです。

委員 各事業には予算があると思いますが、書かないものでしょうか。C評価でも、予算が減額されている中でがんばっているとか、予算との関係での事業評価ができるのではないかと思います。予算をこれから入れて欲しいとは言いませんが。

委員長 地域福祉というくくりでは、予算を見るということはあまりないですね。確かに、がん検診の受診者数といった内容でしたら、予算に関係してくるかもしれませんが。老人クラブの支援については、予算がありますか。

委員 トータルでの助成ということで、あります。

委員 福祉は到達して終わりではなく、継続しなければなりませんので、今後の評価ではAを省いて、BとCをもう少し細かく、上向きか、横向きかという方向性の矢印があれば、わかりやすいと思います。次回はずいぶん、矢印の追加をお願いします。

委員長 この評価とアンケート結果を加味して次の計画をつくることになりますので、これで評価は終わりではなく、矢印での表示をお願いしたいということですね。ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

副委員長 サロンの事業は団体に任せるとすることで、市としては達成、Aではないのかと私は感じました。達成したものは次の計画は省き、新たな事業を入れていくべきではないかと思います。

委員長 ありがとうございます。

委員 全体的に、5年間の計画の健康づくりなどの目に見える成果として、平均寿命などをとってはいませんか。

委員長 国でも、施策との関係を追跡するのは難しいので、市の段階で、健康寿命や平均寿命まで関連させるのは難しいと思います。

委員 もっと単純に、医療費の伸びは。

委員長 それはあるかもしれません。

委員 文章だけでなく、そうした難しくない数値目標で計画が成功したかどうか目に見えるようにしたら、やりやすいと思います。

委員長 地域福祉計画の中に、健康づくりの概念はありますが、医療費削減ということを目標値と

して設定する項目はありません。地域福祉計画は、地域福祉活動をどのように市がどうサポートし、住民が地域福祉に参加するのをどう支援するかということが内容になります。健康づくりや医療費をどうするのかということとは異にします。結果として、ということはあるかもしれませんが、直接的には関係しません。

- 副委員長 総合計画など異なり、福祉計画は理念なので、財政的なものは入っていません。
- 委員 そうすると、自己満足となってしまふ。
- 委員長 自己評価としてはAのないBなので、かなり厳しいものだと思います。庁内会議では相当厳しく見られたのかと思いますが、そのあたりいかがですか。
- 事務局 庁内検討部会の長として回答します。各担当課から出てきたときにはAも結構ありました。庁内検討部会では、達成基準を見誤っていたこともあり、共通理解のもとで見直しを行った結果、厳しめになりました。特に、この計画は理念的なものなので、共通理解を図れることに重点を置きました。意図的にAをなくしたわけではありません。
- 委員長 庁内であっても、住民が見て共感できないものもあるだろうとの視点で評価されたということなので、Aがないことがだめということではなく、これからの計画づくりのために、正確に判断してあると言えると思います。
- 委員 今後、取り組みとしてすべきことが書かれていますので、中間（3年後）の時点での姿（評価基準）を置き、そこで評価しもう一度リセットすることもできるので、できれば理念についても、そうしたことができるといいと思います。
- 委員長 極力、数値的な努力をしたほうが、受け取る側は理解しやすいと受け取りました。地域福祉は住民が主役で役割を担って下さいということですが、今回の評価は市と社協が出しています。市民団体が主役であれば、それらの見方を入れると評価は深いものになると思います。そういうやり方が市と住民を近づけるものとなると思います。
- 委員長 この委員会が、計画策定で終わりではなく、その後も、計画の推進に向けた推進協議会や市民レベルで計画の進捗を評価するための委員会となるのがいいのではないかと今の意見を聞いて思いました。時期が来たら提案させていただきたいと思います。
- 委員 地域福祉計画のほうはよろしいでしょうか。厳しく評価してありますし、理念的なものなので、数値に対する評価ではないので難しいというのが内容です。
- 委員 続きまして平成26年度からの3年間の計画である地域福祉活動計画について、説明をお願いします。こちらは目標数値が明確に入れてあり、また市民目線かどうかという検討がなされたと思います。
- 事務局 (以下の資料を説明)
・「下野市地域福祉活動計画 期末検証と今後の取り組み一覧」
- 委員長 厳しい評価がされており、達成しているという感じも受けています。ご質問、ご意見があればお願いします。
- 委員 6頁の安全帽の給付ですが、新入生に全員配布していますがCとなっています。なぜC評価なのでしょう。
- 事務局 1年生の安全帽の購入に際し、社会福祉協議会が一人1000円を上限に助成していますが、市内の小学校によって価格がまちまちで、自己負担が発生する学校もあります。

- 満額ではないとの観点から C としました。
- 委員 調整はできないのでしょうか。
- 事務局 教育委員会、校長会を通じて調整の話はさせていただいていますが、学校の目減りや予算の都合がありますので、今後、社協理事会や評議会を通じてご相談させていただければと思います。
- 委員長 自己評価が厳しく、委員の方は A でもいいのではということですが、数値目標を達成したということだけでなく、今後の取り組みでは、次を目指したいので A ではなく B ということですね。C ではないと思います。
- 委員 最後の基本目標 3 の仕組みづくりは、社協としていちばん取り組まなければならないところと思いますが、自己評価では、基本目標 1 や 2 よりも C が多いです。次回の計画でも、仕組みこそ、社協がやらなければという感じを受けます。
- 委員 ご意見、ございますか。
- 委員 仕組みづくりに関してはありませんが、目標を数値で示す傾向がここ 20 年くらいで進んできたと思います。そうすると、目標は機械的に増えてきます。自分の行政での経験ですが、予算は減らせ・目標は上げろということがありました。機械的に数値目標を上げるという発想ではなく、分析して、実態に即した目標としないとこれから心配です。また、数字だけで評価していないという話でしたが、量的な評価だけでなく、質的なものも見ていかないと、質量ともに充実した福祉はできないのではないかと思います。
- 委員長 貴重な御意見かと思えます。
- 委員 それに関して、午前中の老人クラブのリーダー研修で、老人クラブ連合会の加入促進に関し目標値を上げていることには根拠があるとのことでしたが、実態としてはクラブの加入者数は減り、休会は増えていると聞きました。この計画を策定した時に、これから右肩あがりの傾向があるのかどうかも見ておかなければならなかったのではないかと思います。今度の計画策定では、数値で目標が出るにしても、根拠があり、実態に合う目標であることが必要と思います。老人クラブの会長さん、いかがですか。
- 委員 過去は忘れて今日からやろうという気持ちでいます。事実を言えば、31 クラブで今年も通期で約 100 名減少します。昨年度も 30 名程度減っています。その他、努力でどうにもできない自然減があり、新規加入を上回っています。
- 委員長 加入は 60 歳からできますが。
- 委員 世の中が変わってきて、製造業では人を極限まで減らしています。そのため、正社員が人材派遣され、同じところで 70 歳近いのにまだ働いているという実態があります。全てではないですが、自治会の戸数は増えていますが、子育て中、40 代の方です。20 年後には違う状況になると思いますが、その時、今の老人クラブの現役が何名残るだろうということです。一から考え直して構想を練りたいと思います。
- 委員長 ありがとうございます。私たちは計画を策定しなければなりませんので、数値目標についても実態を見てみようと思います。
- 委員 これから女性がかんりの位置を占めてくるので、女性のご意見や活動も、明確に位置付ける必要があると思います。活動計画について、女性委員のご意見はいかがですか。
- 委員 ボランティア連絡協議会に入っていますが、会員はやはりだんだん少なくなっています。若い人が入ってきてくれず、子育てを終えると仕事に行ってしまう、なかなか、ボランティアに目を

- 向けてくれません。なんとかしたいですが、難しいです。いい方法があればいいのですが。
- 委員長 ローンがあたり教育費がかかる若い人は生活が苦しいですから。地域への熱意や思いをどう伝え、関わってもらうのかということは大切だと思います。そういう意味で、ボランティアの育成は大きな仕事だと思います。先ほど災害ボランティア養成講座についてはマニュアルも作られ、いい状況とのことでしたが、説明を今一度お願いします。
- 事務局 災害ボランティアマニュアルは平成 26 年度に作成し、27 年度からマニュアルに基づいて、訓練を行いながらボランティア育成を実施しています。マニュアルについては、ボランティアのスタッフ側の育成も含め、災害ボランティアを育成する狙いもあります。
- 委員長 熊本の災害時、災害ボランティアセンターが立ち上がったが職員がうまく対応できなかったということがありました。栃木は災害の心配は比較的少ないところですが、平時から訓練などの仕組みがあるといいと思います。1 期はマニュアルを作る、2 期はそれを活かすという次のステップの計画になるという考え方になりますね。
- 実際に模擬訓練などはされましたか。
- 事務局 マニュアルに基づいて、職員の初動訓練、またボランティアを募り実際に模擬訓練を行いました。
- 委員長 今度は、マニュアルを活かした訓練というものが、計画に含めていくことかと思います。今後を考えると評価は B で継続ということですね。他にはどうでしょうか。
- 副委員長 意見ではないのですが、福祉計画と活動計画で同じテーマ「ふくしフェスタ」が、別々の基本目標に入っていますので、今回は統一したほうが判りやすいと思います。
- 委員長 行政としては推進するという事で入れているのですが、関連項目としてリンクしておいたほうがいいということかもしれません。
- 社協の福祉サービスの充実についてコメントはございますか。福祉バスというのはどういものでしょうか。
- 事務局 福祉バスは社協が所有しているものです。循環していたバスを活用しており、主に運行については福祉団体や社協事業での交通手段としています。現状維持ですが、車両の老朽化もありますので C 評価ですが、バスは必要なので継続としています。
- 委員長 実際、利用されている人は、古いですか。(はい)
- その他、社協事業として福祉サービスの充実として今後考えていることはありますか。たとえば総合支援事業などは考えていますか。
- 事務局 社協が市と協議しているのは、「地縁力」の掘り起しです。総合支援事業もいくつか参入できるものは計画していかなければならないと考えています。今後前向きに取り組んでいきたいと考えています。
- 委員長 その他、市民の集まるどころ、ゆうゆう館の方向性などはどうなっていますか。
- 事務局 ゆうゆう館は、温泉施設、デイ、社協事務所などの建物です。今後、市は指定管理者制度の導入を検討しているとのことですので、社協としても行政と協議して方向性を決めていきたいと思っています。
- 委員長 地区社協はどのくらいの地区を考えているのでしょうか。
- 事務局 地区社協として今年度、モデル地区として 1 カ所を調整中です。想定としては、市内のコミュニティ推進協議会に働きかけ、設置を図りたいと考えています。地域の事情を踏まえると難しいですが、小学校区が理想です。

- 委員長 社協として最終的な何地区にするとの想定はありますか。
- 事務局 小地域福祉活動の時代ですので、今後、小学校区を目指して設置を進める必要があると考えています。
- 委員長 地域福祉活動計画が地域福祉を進める時には、小地域で活動にいつでも参加できる仕組み、助け合える仕組みがこれからのあり方なので、できれば小地域ごとに社会福祉協議会の活動を名乗る団体があり、そこで地域活動ができる仕組みを想定していただきたいと思っていたところです。コミュニティ推進協議会をモデルとして地区社協をつくっていくということですが、地区社協がない市町村は少ないです。小地域活動を市の社協だけで進めるのはなかなか難しいです。今回の計画の大きな柱のひとつとして、地区での組織をどうつくるのかということが大事になると思います。地域毎に課題も人材も違うので、地域ごとに考えていくということが必要だと思います。次期計画では小地域の活動をどう推進するか検討をいただければと思います。
- ボランティア団体はありましたが、NPO 等の福祉に関連する団体との連携は社協としてされていますか。
- 事務局 現状、ボランティア連絡協議会がありますので、その関連ではありますが、NPO 法人全体との連携は薄いです。
- 委員長 災害ボランティアサークルなどとの連携はないですか。
- 事務局 まだありません。ただ、毎年、講習会や訓練での登録はしてもらっていますので、ボランティアセンターで抑えています。
- 委員長 若い人は好きなことには団体を作りますので、ボランティアの概念を広げたり、ボランティアでなくとも協力関係をもっていくことも大事だと思います。ボランティアのところは、市民団体も含めていく必要があるかと思います。他にはございますか。
- 委員 市に住んで 10 年ちょっとの、子育て中、余裕のない 40 代です。子どもを持つ前は活動できていましたが、今は子育てにかかりきりです。地元はまだ密着していない感じがありますが、職場の方のご主人は消防団に入っていたりするので、そうしたアプローチがあるのかなと思います。
- 委員長 消防団はある意味、唯一地域を見ている、地域のために活動している団体です。関わり方を工夫すればいいと思います。
- 昨年、社会福祉法人の改革として、今年 4 月から無料で地域貢献事業をしなければいけなくなりました。お祭りではダメで、保育士さんが町中で子育て相談を受けるなど、公益事業をしなければならないということです。
- 社会福祉協議会は、社会福祉法人をとりまとめる組織でもあるので、社会福祉法人の公益事業を引き入れることも可能なので、その辺も意識したいと思っています。事務局でも勉強していただいて、公益事業がどうあるべきかというご意見も計画に反映させていただけると、社会福祉法人側もありがたいことかと思えます。保育所などは公立を除けば、ほとんど社会福祉法人ですよね。そうした公益事業も計画に入れれば、期待できるものとなります。他にはいかがでしょうか。
- 委員 福祉計画の 3 頁の自主防災組織の育成・強化がありますが、進捗状況の欄に、組織化には至っていないとの記載があります。下野市でも、いつ災害がおこるか判らないと心配しています。今後、早急に考えなければならない課題だと思います。市民アンケートでは、

- 地域の安全は1位です。緊急時の対応体制がわからないというのも1位です。その辺を突っ込んでいかなければならないと思います。
- 委員長 災害時の要援護者台帳は作成していますか。
- 事務局 平成23年度から行っていますが、個別計画の部分では完璧ではないので記載をした状況です。
- 委員長 それが精度の高い台帳ということですね。委員の指摘もあり、一番の事項でもありますので力を入れて検討していきたいと思います。
- 検証は内部評価、自己評価で、委員のみなさんはいろいろとご意見をお持ちと思いますが、この検証は、次期計画策定のベースとなるものとしてお持ちいただき、次期計画の項目を立てる時に、反映させていければと思います。
- 時間の関係もありますので、この議題はこのへんで終わりにしてよろしいでしょうか。
- (はい)
- では、次の議題、アンケート調査について、事務局に説明をお願いします。
- 事務局 (議題(2)について、以下の資料を説明)
・「資料2」
(「第2期下野市地域福祉計画及び地域福祉活動計画」策定のためのアンケート調査の概要)
・「下野市地域福祉計画 期末検証と今後の取り組み一覧」
- 委員長 アンケートについて、何かあればお願いします。
- 委員 3つあります。前回の回収率はどれくらいか、「近所」・「隣近所」の文言の統一、10頁の問25に人権擁護委員も加えていただきたいということです。
- 委員長 「隣近所」については、紛らわしいところがあるので、統一いただければいいと思います。回収率はどうですか。
- 事務局 前回は2,000名にお送りして、回収は777件で38.9%です。今回は、回収率が低い年代については、なるべく多く配布をするような配慮をしたいと考えています。
- 委員長 2,000人の幅の中でということですね。どのあたりが低いですか。
- 事務局 10代、20代です。
- 事務局 市でアンケートを2,000名で行うのは、統計学的な誤差率、費用対効果を考えたことです。年代別の回収率は確かに違いますので、今回はそれを加味して配布数を変え、標本数がある程度揃ってくるように工夫をしたいと思っています。
- 自由意見は、多く出せば多くの意見が出てくるということはあると思いますが、限られた予算の中ですので、それらを考慮した結果です。
- 委員 地区別は考慮していますか。
- 事務局 抽出の段階では地区は考慮していません。年代別の完全無作為抽出です。他の調査の結果も加味したり、調査項目に「地区」はありますので、クロス集計をすることで、地区別の把握は十分にできると思います。
- 委員長 他にはいかがですか。
- 事務局 アンケートは8月ですので、次回の策定委員会は結果が出たころに開催ということですね。次回11月第3週の策定委員会までの間に、住民懇談会(座談会)、団体ヒアリングを予定しています。アンケートに加えて、それらの結果、骨子案の提示を予定しています。

- 委員長
事務局 座談会やヒアリングについては、具体的になっていますか。
ヒアリングについては、今後調整して進めていきます。座談会は 9 月中の土曜日に、ゆうゆう館で開催したいと考えています。人数は 30 名程度を想定し、社協の関連団体や一般の皆さんにご参加いただけるよう呼びかけ、新たなニーズ、地域の課題、市のいいところ悪いところを含め議論ができる座談会にして、この計画に反映できるものを見出したいと考えています。
- 委員長 アンケート結果、座談会、団体ヒアリング等、1 次計画の時にめられた内容がまとめられた上で骨子案が出るスケジュールとのこと。私たちとしては、本日の評価結果とアンケート結果、骨子案を比較し思いを持っていただくという形になると思います。
その他、アンケートについて、何かございますか。
- 委員 地域住民の方が、社会福祉法人に期待することについての声を拾っていただけるようなアンケートや座談会であるといいと思います。
- 委員長 問 16、17 で地域の中の問題点や、地域住民が取り組むべき課題がありますが、同様な形で、社会福祉法人に特化した質問があるといいということでしょうか、またはどういうことがあるといいかというような自由記述的な内容か、どちらがよいでしょうか。
- 委員 住民が具体的に必要としているサービスを拾っていただければということなのですが、
- 委員 アンケートの実施まで時間がない中でどこまでできますか。自由記述のところとすると、説明が必要ですね。
- 委員 自助・公助・共助の中の共助の話だと思います。既存の公的サービス以外で必要としているようなニーズがあるか、それは何かということかと。
- 委員長 社会福祉法人として、地域貢献をするにあたってのヒントが欲しいのだと思います。行政のサービス以外でどうなのかということですが、行政が提供しているサービスが何か、一般の方にはなかなかわからないですね。ヒアリング、懇談会で聞くのはいいですが、アンケートに入れるのは難しいですね。別の機会にできますでしょうか。
ある意味、社会福祉協議会が社会福祉法人に対して調整しなければならないことなので、ぜひ座談会で進めていただければと思います。
- 委員 今日（午前中に老人クラブのリーダー研修で林先生の講話）の老人クラブでのお話（老人クラブとして地域福祉計画、活動計画に何をなすべきか）は判りやすかったです。感想を聞いたところ、初めて行政や社協の皆さんがここまで考えてやられているのを知り、老人クラブとして何でも協力しますと言ってくれた方がたくさんいました。こういうことがないと、行政の指針・方針は浸透しないのかなと思いました。
- 委員長 今日老人クラブの人にお話しをして、協力をお願いしたところ。市民向けの福祉教育や小地域福祉活動の大切さなどについての啓発なども、社協の事業としてあったらいいなと、今のご意見を伺ってあらためて思いました。
この計画の理念として、行政は「支援します、積極的に協力します」、社協は「どういうことを」「どれくらい」「どうやって行うか」ということを記載します。両者が一体的になっているという安心感の中で計画が作られ、それに住民が参加していく、自分たちで下野市を作っていくという計画ですから、座談会やヒアリングの対象になったり、アンケートがご自身や友人に届いたりしたときには、いろいろな意見を言っていただければと思います。
以上で、全ての議事は終了しましたので、進行をお返します。

4. その他

(事務局)

次回第3回は11月を予定しています。内容は、アンケートほか各種調査結果・座談会のご報告と骨子案のお示しとなります。本日の議事録は、完成次第皆様にお送ります。内容にご指摘があれば、締切日までにご連絡ください。修正の上、問題がなければ署名人（津野田委員、軽部委員）に署名をいただくという形でもよろしくお願い致します。

5. 閉会

(事務局)

議事録署名人

津野田 久江

議事録署名人

軽部 益子

